



11 / 17 日

11:00 ~ 15:00

和白干潟・海の広場 (福岡市東区和白4丁目)

参加無料 小雨決行、雨天中止



「ミヤコドリ飛翔」



マリンワールドの
お魚水そうもあるよ！

どんな鳥がいるかな？

干潟の生きものと遊ぼう！



第36回



和白干潟の自然を楽しもう！

ラムサール条約登録をめざして！

和白干潟まつり

第36回 和白干潟まつり

11月17日(日)



11:00~15:00 参加無料

干潟の生きものと遊ぼう

マリンワールドの

お魚水そう展示もあるよ!

会場 和白干潟・海の広場

(東区和白4丁目海岸) 駐車場なし

小雨決行・雨天中止

主催/ 和白干潟まつり 実行委員会

[構成団体] 和白干潟を守る会、
グリーンコープ生協ふくおか 福岡東支部

協賛団体/ 日本野鳥の会福岡支部、博多湾会議

お問い合わせ
お申込み

松尾・090-9651-8489

カンパなどのお願い

第36回和白干潟まつりを成功させるために、
皆様のご協力をお願いいたします!!

1. カンパは干潟まつりの運営資金にあてます。
2. 他の会の機関誌にも干潟まつりの案内を掲載したり、チラシの配布にもご協力下さい!

カンパの送り先: 和白干潟を守る会
郵便振替01720-4-23860

飲食物もあります!

参加される皆さん、長靴・敷物・水筒を
持って来てね!

ラムサール条約登録をめざして

今年もラムサール宣言を出します!
福岡市長のメッセージが届きます!

プログラム

開会式	11:00~11:20
ラムサール宣言	
バードウォッチング	11:20~12:00
自然あそび	12:00~12:35
植物観察	12:40~13:15
干潟の生物観察	13:20~14:00
ステージ	12:30~14:00
コーラス、紙芝居 マジックショー、ギター他	
一言アピール	14:00~14:15
手をつないで	14:15~14:25
干潟の掃除	14:30~14:50
お魚水そう展示	11:20~14:50
写真展・パネル展	11:20~14:50
模擬店	11:30~14:50
閉会式	14:50~15:00

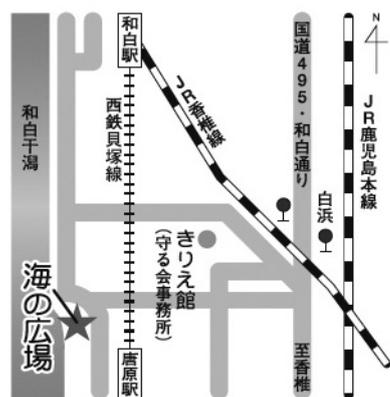
干潟まつり ボランティア募集!!

前日11/16(土) 15時~ 会場整備
当日11/17(日) 9時~ テント設営
運営手伝いなど

応援お願いしま~す

交通

- 西鉄貝塚線
唐原駅より
徒歩5分
- 西鉄・JR和白駅
より徒歩10分
- 西鉄バス
白浜バス停より
徒歩5分





観察会などのようす

(松藤 真理奈)

7月20日 和白干潟の生きものやハマボウを見る会 28名参加

(和白干潟保全のつどい主催)



梅雨明けも近い夏の日差しの中、28名の参加がありました。2003年に牧の鼻でハマボウが発見された事を機に、その2年後から和白干潟を守る会で「ハマボウを見る会」を始めました。現在は「和白干潟保全のつどい」主催になっています。

唐原川河口からスタートし、河口近くにある4つのハマボウ群落に向かいます。黄色の花を咲かせた群落は年々海の広場の方にのびてきています。干潟の生きもの観



察の講師は藤井暁彦氏。感想では「たくさん生きものが見れて楽しかった」「カニの種類と雄雌の識別が分かった」などがありました。ハマボウの花もきれいでした。今年も大変好評でした。(山之内)

9月14日 唐原川お掃除し隊報告 11名参加 回収ゴミ：11袋 と自転車など

(山・川・海の流域会議主催)



連日の猛暑の中、第12回「唐原川お掃除し隊」を強行しました。今年の参加者は、暑さと共に他の行事と重なった為、去年の半分でした。外輪崎橋上流と下流、浜田橋下流から河口までの3か所で活動を実施。

外輪崎橋上流は改修工事でアシ原が消え、残留ゴミは殆どありませんでした。浜田橋付近は今年も自転車が1台廃棄。ゴミ量は減少。外輪崎橋下流は、アシ原にゴミが多く残留していました。作業の途中、珍しくササゴイと出会いました。大きなフグやガザミの子ども、

カニも水の中を素早く泳いでおり感動しました。河口干潟では、ハクセンシオマネキが子どもも加え、たくさん爪を振っていました。暑さの為、作業は1時間としましたが、アシ原の中は壮絶な暑さで危険な状況。体調を崩す人も有り、早々に切り上げることになりました。最後に回収ゴミの仕分けをして散会しました。参加された皆様、お疲れ様でした。(松田)

9月28日 国際ビーチクリーンアップ・ゴミデータ調査 30名参加 回収ゴミ：48袋

国際ビーチクリーンアップは、世界的規模で一斉にゴミ調査をする催しです。9月28日の和白干潟クリーン作戦では、30名が参加し48袋のゴミを回収しました。海岸の人工ごみを45分間拾い集め、その後人工ごみを分類調査する班と自然ごみを回収する班に別れました。人工ごみは30種類に分類し集計しました。特に多かったのは「飲料缶」で、その次に多かったのは「ペットボトル」でした。調査には九州産業大学宗像ゼミの方々などに協力していただきました。(山之内)



和白干潟の 秋 の自然だより

(山本 廣子)

アキノミチヤナギ (タデ科)



アキノミチヤナギ

アキノミチヤナギは北海道から九州の海岸に生えています。葉の形をヤナギと見立てて和名「秋の道柳」が付けられたそうです。花は直径4mm程で葉の間や先端に咲いており、赤っぽい果実などもたくさんついています。花は小さくて目立ちませんが、よく見るととても可愛い花です。花期は9~10月です。和白干潟のアシ原付近にたくさん生えています。私は和白干潟で初めてこの花に出会いました。他の海岸にも生えているそうですが、地味なのでなかなか気付かれないのかもしれませんがね。

コメツキガニ (コメツキガニ科) 甲幅1cm

砂質の和白干潟では一番多いカニです。甲は丸く背面が膨らんでいます。全体に淡褐色で、胸は紫色できれいです。砂泥を口に運び、有機物をこしとって食べた後を砂団子にしてまき散らしています。巣穴を掘った砂団子は大きくて、食べた後の砂団子は小さくて真ん丸です。干潟の汚れを食べる掃除屋さんですね。晴れた日の干潮時には、きれいな砂団子があちこちに敷き詰められています。

北海道から九州までの内湾や河口干潟の砂質や砂泥底に生息しているカニで、チュウシャクシギなどのシギ科鳥類の重要な餌になっています。2000年頃には環境悪化や業者の捕獲のために、コメツキガニは生息数を減らしていましたが、現在は回復しています。しかし今夏の余りにも強い猛暑で、海水温や干潟の表面温が上がり、コメツキガニにも影響が出ていないか心配ですね。



コメツキガニ

メダイチドリ (チドリ科) 全長19cm



メダイチドリ

メダイチドリは和白干潟では旅鳥として主に春に多く訪れていますが、冬に見られることもあります。目が大きめで目大千鳥の名前が付いたそうです。夏羽は後頭から胸にかけて橙色になり、とてもきれいです。雁ノ巣海岸や香椎海岸の岩場でも春にはたくさん訪れていましたが、人工島ができてからは、すっかり少なくなりました。海辺の開発は水鳥たちを絶滅へと向かわせています。

最近では秋に雁ノ巣海岸でオオメダイチドリを見ました。オオメダイチドリはメダイチドリよりも少し大きくてカニを好んで食べるそうです。またたくさんのメダイチドリの群れに会いたいものです。

「世界的な気候変動と異常気象」

今年の夏は、「天災の夏」と言われるほどの異常な暑さに苦しめられました。日本全国で過去最高、観測史上初との見出しが躍る毎日です。今や世界中どこの国でも、異常気象による大災害が報じられています。原因は二酸化炭素の排出による地球温暖化です。海水温の上昇による気候変動、台風の進路、速度、その規模はだんだんと予測不可能になり、東北で大雨、日本各地で竜巻、北海道でも梅雨、東京都心で線状降水帯による冠水などがあげられます。地元大宰府では連続真夏日の日本記録を更新、9月を迎えても真夏日が収まらないとは、いつまで続くのでしょうか？地球温暖化は、今後ますます私たちの暮らしに大きく影響してくると思います。ここにも経済優先のつけが回っています。今からでも遅くないので、自然優先の社会に戻していくべきだと思います。

ラムサール条約登録地を訪ねて ⑤ タデ原湿原

(松田 元)

ラムサール条約に登録された干潟や湿地は、どのように良くなり変わったりしたのかを聞いてみました。

「タデ原湿原」は九重連山の麓、日本一の雄大さを誇る「阿蘇くじゅう国立公園」の中にあります。アシ群落やヌマガヤ群落が広がる湿原内には木道が整備されています。湿原の入り口には2階建ての建物の中にシアートルームや趣向を凝らした展示品が並ぶ「長者原ビジターセンター」があり、湿原に入る前と後に入館して話を伺いました。「タデ原湿原」は、「坊ガツル湿原」と共に、2005年にラムサール条約に登録されました。面積38ha、標高約1,000mに位置する国内最大級の間湿原です。寒冷で多雨な自然環境と合わせて、野焼き等による人の手によって現在の形を維持しているそうです。湿地は放っておくと、やがて森林になります。地域のボランティアによって景観維持・文化継承の為に野焼きが行われています。また、外来種の侵入・定着を防ぐ取り組みを官民一体となって進めているそうです。

私たちも水鳥や魚、動植物などの様々な生物を育む湿地を国際的な資源として保全していくために、和白干潟を早期にラムサール条約に登録しなければならぬと思いました。



★ 和白干潟のこと ★ ② エビがきや海苔の養殖

(今林 真由美)

1965年頃、私は11歳でした。塩浜の近所のおばあさんは、リヤカーを引き子供たちを連れて、潮の引いた和白川河口の干潟に出かけました。今のような岩はなくきれいな砂浜でした。おばあさんがT字型の板に大きな釘を打ち付けた道具で砂に釘を押し付けながら引いていくと、エビがピョンピョンと砂の中から飛び出すので、子供たちがそれを拾っていきます。アサリやアカガイも採りました。おばあさんは防波堤に付いているカキを石で叩いて身を出し、潮水で洗って食べていました。流れ着いた板切れや木の枝を拾って、風呂の焚きつけにします。帰り道、畑の道から見える立花山は小さな頂上を三つ持ち綺麗な裾を広げた富士山のような形に見え、友人とこっそり「和白富士」と呼んでいました。夕方には蒸気機関車が白い煙を吐きながら和白駅へ向かっていくのに会えるのも楽しみでした。

奈多から雁ノ巣の沖では、海苔の養殖が行われていました。海上に海苔ひびが整然と立ち並び、漁師さんの小舟がその間を縫うように動いていました。雪で白と黒の世界になる冬、降る雪で沖の海苔ひびの影が遠くになるにつれて色が薄くなる景色や、夜暗い海面に灯りをともした小舟がぼんやりと見える風景が好きでした。漁師さんには、寒い中の辛い作業だった事でしょう。

気が付いたらあなたも電話してください！

海辺のゴミやアオサを取ってほしい時・自分でゴミを拾った時

092-282-7146 (港湾空港局・維持課)

沖のアオサを取ってほしい時

092-282-7154 (港湾空港局・みなと環境政策課)

弱った野鳥を見つけた時

092-513-5611

福岡県筑紫保健福祉環境事務所地域環境課

092-643-3367

福岡県環境部自然環境課野生生物係

** お 願 い **

干潟でのゴルフやラジコンの練習、ドローンの使用はやめましょう！とても危険です。

干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう！

(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)

犬のフンの始末は飼い主がしましょう！



2024年 6月

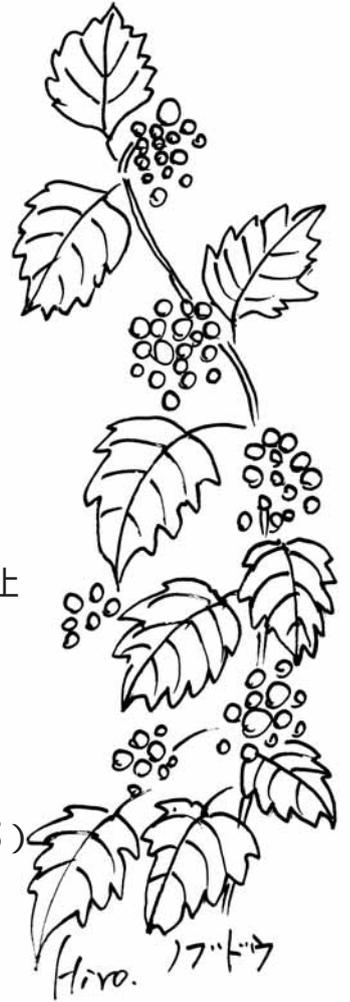
- 6/3 (月) 和白小学校4年生の和白干潟観察会
- 6/4 (火) 2024年度春期シギ・チドリ調査報告書作成
- 6/9 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
- 6/11 (火) イオンイエローレシートキャンペーン
- 6/13 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 6/15 (土) JAWAN2024年度総会参加
- 6/18 (火) 和白干潟通信150号編集会議
- 6/22 (土) 定例会議・ラブアースクリーンアップ参加の
和白干潟クリーン作戦と自然観察

2024年 7月

- 7/9 (火) 和白干潟通信150号発送会
- 7/11 (木) イオンイエローレシートキャンペーン
「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 7/13 (土) 「山・川・海の流域会議」参加
- 7/14 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部) 雨天中止
- 7/20 (土) 第14回和白干潟の生きものやハマボウを見る会
(和白干潟保全のつどい)
- 7/27 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察

2024年 8月

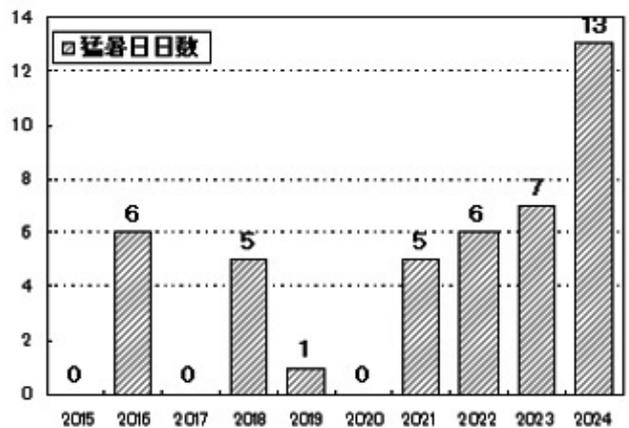
- 8/4 (日) 2024年度秋期シギ・チドリ調査1回目(今津)
- 8/6 (火) 2024年度秋期シギ・チドリ調査1回目(博多湾東部)
- 8/8 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 8/11 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
イオンイエローレシートキャンペーン
- 8/20 (火) 第36回和白干潟まつり第1回実行委員会
- 8/24 (土) 定例会議・クリーン作戦と自然観察
- 8/27 (火) 和白干潟通信151号編集会議



干潟のつぶやき 「干潟が沸騰(ふっとう)している!」

地球温暖化の影響は、私たちの直ぐ近くまで押し寄せているようです。右のグラフは、福岡市の過去10年間の7月度猛暑日日数を表したものです。グラフのように平年は月に5～6日だったものが、2024年は13日も発生しています。また和白干潟では、7月上旬にはクサフグの大量死やアカエイの死骸が打ち寄せなどのほか、例年8月になると発生するアオサにも異変が見られています。例年であれば、主にアオサが徐々に増殖するものが、発生しても増殖が進まず、アオサに混じってボウアオノリやアサミドリシオグサが大量発生しています。

過去10年間の7月度の猛暑日日数



猛暑日が続いたことで海水温が上昇し、干潟の生きものたちを痛めつけているようです。地球沸騰の影響を受けて、干潟も沸騰しているようです。こんな状況は今年だけであってもらいたいなあ。

九州産業大学特別講義開催

テーマ 「和白干潟の自然を守ろう！」

日時：10月12(土) 13:40 ~ 15:20

会場：九州産業大学 1号館1F S101教室

講師：山本廣子氏 和白干潟を守る会 代表

主催：九州産業大学

地域共創学部地域づくり学科

参加：無料 一般の方も参加できます。

問い合わせ：宗像 優氏

TEL 092-673-5294 (研究室直通)

アオサのお掃除大作戦

日時：第1回 9月29日(日)

13:00 ~ 15:00

第2回 11月2日(土)

14:30 ~ 16:30

集合：和白干潟(海の広場)

東区和白4丁目海岸

主催：和白干潟保全のつどい

問い合わせ TEL 090-8412-2663 (山之内)



バードウォッチングin和白干潟2024

日時：11月30日(土) 10:00 ~ 12:00

集合：和白干潟(海の広場) 東区和白4丁目海岸

主催：和白干潟保全のつどい

問い合わせ：TEL 090-8412-2663 (山之内)



和白干潟の水質・砂質調査結果

表は2024年4月から2024年9月までの水質調査と砂質調査結果です。和白干潟の水質調査についてはリン・亜硝酸とも色見本の最低ランク付近であり、CODも最近の和白干潟の普通状態です。透視度はどの月も70cm以上あります。唐原川と和白川では、唐原川の方が汚れている状態です。砂質調査については、表層酸化層の厚さが沖合い150メートル地点よりも浜辺から10メートル地点の方が薄く、浜辺側が汚れています。

水質調査結果 (2024年4月~2024年9月)

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
リン酸イオン(PO ₄)	mg/l	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
化学的酸素要求量(COD)	mg/l	5	5	4	5	5	5
亜硝酸(NO ₂)	mg/l	0.01	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005
透視度	cm	100	70	75	100	100	75

砂質調査結果 (2024年4月~2024年9月)

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
10 ^m 地点 表層酸化層の厚さ	mm	4	3	3	3	2	2
還元層の黒色度	-	14	14	14	14	14	13
150 ^m 地点 表層酸化層の厚さ	mm	18	25	16	7	5	3
還元層の黒色度	-	13	12	13	13	13	12

唐原川 水質調査結果 (2024年4月~2024年9月)

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
リン酸イオン(PO ₄)	mg/l	0.05	0.05	0.02	0.02	0.05	0.05
化学的酸素要求量(COD)	mg/l	10	12	10	10	12	10
亜硝酸(NO ₂)	mg/l	0.005	0.005	0.01	0.005	0.005	0.005

和白川 水質調査結果 (2024年4月~2024年9月)

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
リン酸イオン(PO ₄)	mg/l	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.1
化学的酸素要求量(COD)	mg/l	6	5	7	6	6	8
亜硝酸(NO ₂)	mg/l	0.005	0.005	0.01	0.005	0.005	0.005

守る会問い合わせ窓口

ホームページ: <https://wajirohigata.sakura.ne.jp/>

入会 / 観察会(申込等) 山之内 芳晴 Tel. 090-8412-2663
 クリーン作戦 田辺 スミ子 Tel. 090-1346-0460
 広報 / 調査 / 定例会議 山本 廣子 Tel. 092-606-0012
 干潟まつり 松尾 満子 Tel. 090-9651-8489



第26期 和白干潟の自然観察ガイド講習会「伝えよう、和白干潟の鳥のこと！」

日時：12月22日(日) 13時～17時(受付：12:30)

集合：和白干潟を守る会事務所(福岡市東区和白1-14-37) きりえ館1階

講師：中村 聡 氏：日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリ 元レンジャー

主催：和白干潟を守る会

問い合わせ：TEL090-8412-2663(山之内)



和白干潟を守る会では、博多湾に残された和白干潟の大切さを観察会を通して伝えていきます。和白干潟の観察会のガイドを育成する講習会を開催します。室内とフィールドでの講習があり、自然を体験して学習します。参加をお待ちしています。(初心者歓迎)

定例スケジュール

定例会議(10/26, 11/23, 12/21)

毎月第4土曜 12時～14時 守る会事務所にて開催。

12月は 第3土曜

クリーン作戦と自然観察(10/26, 11/23, 12/21)

毎月第4土曜日15時～17時 和白干潟・海の広場集合

長靴があると便利。駐車場なし。12月は 第3土曜

和白海岸探鳥会(10/13, 11/10, 12/8)

毎月第2日曜日9時～12時 JR和白駅前の和白公園集合

参加費：一般300円 中学生以下は無料 野鳥の会会員100円

主催：日本野鳥の会 福岡支部



会員募集中!

年会費 個人 2,000円

団体 5,000円

カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860

和白干潟を守る会

ボランティアへのお誘い

和白干潟の清掃、鳥の調査のお手伝い(車の運転や記録)、観察会のお手伝い(写真撮影)などです。参加をお待ちしています!

和白干潟の鳥たち(その107)

オバシギ(チドリ目 シギ科 / Great Knot) 姥鷗 【全長：27cm】



写真撮影：三宅 僚

オバシギはロシアやアラスカで繁殖して、日本では旅鳥として春秋の渡りの時期に見られます。和白干潟でも春と秋に立ち寄って行きます。干潟、河口、岩場、水田でも見られます。ゴカイやカニ、貝類などを食べています。和白干潟では春に10から20羽のまとまったオバシギが立ち寄って行きますが、秋には数羽が見られます。シギとしてはずんぐりした体形で、黒っぽい色合いです。夏羽では橙色も混じります。8月に雁ノ巣海岸で4羽のオバシギと会いました。暑い中、シギたちが渡っているのかと思うと、胸が熱くなります。秋の渡りは過酷で鳥たちは皆痩せています。和白干潟でたくさん食べてね、と祈ります。(山本 廣子)

【編集】田辺 スミ子・松田 元・今林 眞由美・松藤 真理奈・山本 廣子・山之内 芳晴
カット くすだひろこ 次号は2025年1月に発行予定

【編集後記】 8月下旬に和白干潟で、たくさんの生まれたばかりの数ミリのコマツキガニの赤ちゃんを見ました。温暖化の影響を受けて干潟の生きものたちが痛めつけられていますが、干潟の生きものたちもたくましく生きています。(山之内)

